

UNITED STATES SPACE FORCE

小さいころからNASAを夢見て、SPACE FORCE へ入隊した息子がトレーニングのために半年間CAに移り住むことになりました。息子の引っ越しの手伝いに、CALIFORNIA 州 VANDENBERG SPACE FORCE BASEを訪れてきました。

SPACE FORCEとは、2019年12月に国防総省(PENTAGON)のもとに設立され、カリフォルニア州、コロラド州、フロリダ州に基地があります。その活動は「スペースパワー」と称し、衛星、気象観測、グローバル金融ネットワーク、国際商取引、携帯電話ネットワークの同期化を可能にし、GPS、NASAや商業ロケット打ち上げの管理など様々な定義が含まれています。息子が入隊するにあたり、突然に私ら親の元にPENTAGONから身元調査の依頼があり、入国日や渡航履歴、帰国時に会った親戚関係に至るまで全て調べられていることにドキドキしながら対応したのを覚えています。

さて、初めての電気自動車で充電切れにひやひやししながら、LAから北に美しい海岸沿いをぬけ、霧の山脈をドライブすること2時間半。やっと辿り着いた基地は沢山のワイナリーに囲まれた長閑な片田舎に位置していました。周辺には温泉や風光明媚な漁港があり、こんな避暑地的なところのどこからロケットが打ち上げられるのか不思議に思ったりです。

基地の入り口にはVISITOR CENTERがあり、一般の人はこちらでパスポート、SSN等が確認され、予約制で基地に入ることができる仕組みになっているそうです。

SPACE FORCEのバッジをつけた息子の運転で、敬礼しながらの検査ゲートを無事に通り抜けました。ゲートは不意な襲撃を避けるために、わざと曲がりくねった構造になっており、映画で見るような遮断機が不審者の侵入を妨げています。

99,604 acres という東京ドームが8661個も



入る敷地に、16の発射台を備えた、とてつもなく大きな基地です。ウミガメが産卵にくるほどの美しいプライベートビーチがいくつも健在しており、古代の地層がみられるような岩や崖壁があり、手付かずの自然そのまのビーチを訪れるだけでも価値がありそうです。

基地内には隊員の家族のために小学校や病院、プールや国際会議場、免税で何でも揃う大きなスーパーなどがあり、塙で囲われた一つの巨大な町になっています。

整備された道路のそばでは子供たちが遊び、何故かどこよりも安全な雰囲気が漂います。

午後5時ちょうどに、どこからともなく国歌が流れ、信号を通過する車も通行人も、まるで時間が止まったかのように動かなくなった場面に遭遇したときは、かなり驚きました。

アメリカ国家への忠誠心と愛国心がそこには感じられ、昨今の日本を思うと大和魂はどこへ行ったのだろうかと考えさせられました。

海に向かって走る途中でワイヤー柵で囲われた大きな運動場のようなどころが数か所あり、その下には宇宙戦争になった時に発射されるミサイルが地面の下に設置されているのだから。遙か遠くの山の上や柵にロケット発射台や衛星レーダーがいくつも見えました。

別記事でご紹介されていますように、次世代に向けてどんどん宇宙開発が進み、多くの企業がSPACE FORCE・NASAの取り組みに関心を寄せ、共同事業開発がますます進むことと思います。

息子の次の研修はコロラド州ということですので、半年後にはまた引っ越しのお手伝いです。

(北米三菱商事 ウィリアムス 泰子)



駐妻のヒューストン日記

第227回 土田 葵 さん

こんにちは。私は、2022年の夏にヒューストンに子連れで渡米し、約1年が経ちました。私はそれまで京都で和菓子のお店を営んでおりました。渡米してからの自己紹介で「和菓子を作っている」と伝えると現地の方、日本の方、共に驚かれることが多く、いかにマニアックな職業なのかというのを改めて気付かされている次第です。初めは手が鈍るといけないという理由でHmartやH.E.B.で仕入れた小豆であんこを作ってみたりするだけでした。それだけでは飽き足らず、Pop-upをしてみるようにもなりました。それがきっかけとなりJASH(日米協会ヒューストン支部)の皆さんと出会い、より現地の方に和菓子を知ってもらい、食べてもらう機会が増えました。

5月に開催された「JAPAN FESTIVAL HOUSTON 2023」の出店もその一つです。

現地で手に入る材料と道具を使い、あんみつと餅入りどら焼きをこしらえました。「アメリカ人好みの味付け」を目指さず、日本で使っていたレシピをベースに作りました。結果としてどら焼きがとても好反応でした。以前、



3月ライス大学での日本語スピーチコンテストで和菓子を紹介させていただいた時の様子。

「豆が甘いことに抵抗がある人が多いのでは。」と耳にしたことがあり、餡子が受け入れられないかもしれない、と少しの不安がありました。しかし実際は予想していたよりも、和菓子に対してポジティブな反応でした。日本食が浸透し、良いイメージを持っている人が増えているのが背景にあるかもしれません。イベント初日は猛暑、2日目は大雨といったヒューストンらしい安定しない天候でした。また、初めてのことでどれくらい作ればいいのかも分からず、全て手探りでしたが無事完遂することができました。サポートしてくれた友人がいてくれたこと、家族の協力があつたからこそ初めての場所、初めてのことにチャレンジすることができました。日本に住んでいた頃は、まさかアメリカで和菓子を作り、売っている未来は予想していませんでした。同行したからこそ得られた経験だと思っています。今は、どんな情報でもSNSで気軽に得られる時代ですが、実際に体験してみるとということが如何に人生を豊かにするのか、身をもって感じることができました。

「国が違えど“おいしい”は共有できる」というのがこれまでの活動を通じて得たことです。首尾一貫として和菓子のことの徒然と申し訳ないのですが、今はもっと和菓子の魅力を伝え広めて認知度をあげたいというのが目標となっています。とは言えまだまだ言葉の壁でつまづくことがほとんどですが、その目標に向かってトライしていくことが私の日々の活力です。Pop-up(上段のPop-upと表記を統一)も継続して開催していますので、是非お気軽にお越しください。

いつの日か、スタバのドーナツの横にどら焼きがあつたらいいのに・・・という夢を馳せて。



JAPAN FESTIVAL HOUSTON 2023初出店しました。